

# 家庭教育力の強化を図ろう

～ 気軽な つながりづくり ～

豊川市立東部小学校 P T A

## 1 校区と学校の概要

本校は、昭和38年4月に、睦美、麻生田、三上の3つの小学校が合併して誕生した。開校当時の児童数は492名で、ピンクの新校舎ができるまでは、3つの分教場で分かれて学んでいた。校区は、豊川市の東部にある豊川インターチェンジを含む広い範囲にあり、野菜や菊、バラなどの園芸や稲作を営む農業地帯が大部分を占めている。また、インターチェンジから国道151号に沿った市街化区域では住宅化が進んでいる。本年度、新しい校舎が完成し、新しい環境の中、451名の児童は、「よく学び よく遊び よく働く」の校訓のもと、明るく元気に学校生活を送っている。

## 2 研究テーマへの取り組み

本校 P T A は、家庭・学校・地域が一体となって、子どもたちの健やかな成長を願う活動を展開してきた。近年、共働きの家庭が増え、親子での触れ合いの時間、地域での人と人のつながりを持つ機会が薄れてきたことを感じる。「家庭の教育力の強化を図ろう」をテーマに、P T A 活動を考える際、P T A が核となり、気軽に参加できる取り組みを工夫し、学校での活動に積極的に参加することにより、子どもや地域の人たちと共通の話題をもったり、体験したりすることで、つながりの輪を広げることとした。それが、家庭や地域の教育力を高めると考えた。

## 3 主な活動内容

### (1) 親子登下校を契機に ～子どもたちとの時間を共有する～

4月に行う P T A 総会について、校舎改築を契機に、親子揃っての登下校と親子通学団会を行なった。近所でも学年が違えば全部が全部顔見知りとは限らない。揃っての登下校により交流が進み、お互いの理解が深まる一助となった。また、P T A 総会への参加率も増加し、P T A 会長の思いを多くの方に伝えることができた。



「人と人とのつながりを大切にし、機会をとらえては、学校へ足を運んでもらい、子どもたちを同じ時間を共有し、見守ってほしい」、この声掛けから、活動がスタートした。

### (2) 学校の活動に参加しよう ～気がるに 楽しく～

文化委員会が行っている給食試食会には、40名を超える保護者が参加した。栄養教諭の講話や試食が終わった後、皆自分たちの子どものクラスを訪れ、子どもたちはお家の方に見守られながら笑顔で頑張る姿があった。P T A の活動に限らず、6年生の赤ちゃんふれあい体験、2年生



の名人探検など、子どもたちの学習活動に、積極的に参加し、時にボランティアとしてサポートするなど、子どもと共に学ぶ場面が増えた。これらの活動は、写真やイラストを多く取り入れた P T A 新聞「みどりの」を通じて、保護者や地域に伝えた。

また、実行委員会でお揃いの T シャツを作成し、各種 P T A 活動において着用して活動した。P T A 実行委員が、楽しく活動している姿を見てもらうことは、何よりも、学校行事へ保護者が関わってもらうきっかけとなった。

### (3) 子ども見守りたいや読み聞かせ、奉仕作業や資源回収 ～多くの人の力が集まって～

気軽に参加できるときに、無理のない形で、「散歩や畑仕事などの際に、ベストを着用して出かける」「小・中学生の登下校の時間帯に、ベストを着用して通学路周辺で子どもを見守る」ことを合言葉にスタートした「東部小校区子ども見守りたい」も4年目を迎え、PTA総会などでの呼びかけもあり、保護者・地域の方々が、140名程参加している。どの子ども我が子と同じと考え、下校の見守りに参加する。当番制ではなく任意の参加としているが、多くの方が子どもたちに声をかけてくださっている。読み聞かせサークル「おはなしたんけんたい」は、毎週水曜日の朝に活動をしており、月に1回、昼放課に行われる「おはなしひろば」には、毎回100名を超える子どもたちが楽しむイベントとなっている。PTAとして立ち上げたサークルには、卒業したあとも継続して活動するメンバーも多い。

毎年行っている奉仕作業では、図書室の移動もあったため、父親への参加と親子での活動を呼び掛けた。当日、多くの家族が集まり、笑顔で活動することができた。また、毎年10月と2月に行われる資源回収も、事業委員会が中心となって行う大きな行事である。それぞれの学校でも行っている活動であるが、各地区の学級委員や子ども会が協力して、1時間弱ですべての活動が終了し、毎回30万円ほどの収益があり、貴重な活動資金として学校からも感謝されている。

みんなで学校を支えるという意識が浸透し、大きな力となっている。

#### (4) 気軽にアイデアを ～皆のためになることを考える～

実行委員会では、気軽な話し合いの場が設定されている。運動会の種目に「地区別対抗」があった。毎年違った種目を考えていたが、昔あった「通学団リレー」の復活を提案し、大変盛り上がった競技となった。また、新校舎の完成に伴い、これまであった運動会における「場所取り」をしなくてよいためアイデアを出すことにより、前日からの場所取りがなくなった。これらは、実行委員会での自由な話し合いの中から、生まれてきている。

本年度は、第3回学校の日、「親子で聞いて元気が出るお話」をテーマに、心理カウンセラーの竹内成彦氏によるPTA教育講演会を行うことを計画した。また、蔵書の足りない低学年図書室への絵本や学級文庫用の本などの献本活動も、新たに開始した。

#### (5) 新たな取り組み ～ちょボラ隊～

子どもたちの継続的なボランティア活動を行う団体として、高学年児童を中心に「おまかせちょボラ隊」が結成された。子どもたちは、昼放課を使って、楽しみながら、ペンキ塗りや花壇づくり、学校整備活動をおこなっている。それに呼応して、PTA役員経験者の声掛けによって、子どもたちの活動を気軽にサポートする「おたすけちょボラ隊」も結成された。



「参加できるときに、気軽に活動する」会として発足し、避難所生活体験では、はそりを使ったカレー作りを楽しみ、小中合同クリーン作戦では、70名を超える親子で気持ちの良い汗を流した。また、草取りちょボラなど、学校環境整備に気軽に参加する姿もあった。

## 4 終わりに

PTAの活動を終えた保護者の方から、こんな言葉を聞いた。「PTAのお役をやる前は、面倒だなと思うけど、やってみると楽しいし、役が終わると、今度は協力しようという気になる」PTA活動に参加し、こんな思いを持った方は、自然といろいろな場面でサポートをしている。

活動の内容を工夫することや趣旨をきちんと伝えることで、参加度を上げることができた。校区の中での人と人とのつながりの深まりは、地域を離れて多くの人々ともつながった。今後も、それぞれの活動の意義を伝えて、継続・工夫をしながら、子どもの成長を育んでいきたい。